

農業環境インベントリーとは

インベントリーとは本来は財産・商品などの目録、一覧表を意味します。農業環境インベントリーとは以下のような標本やデータのことをいいます。

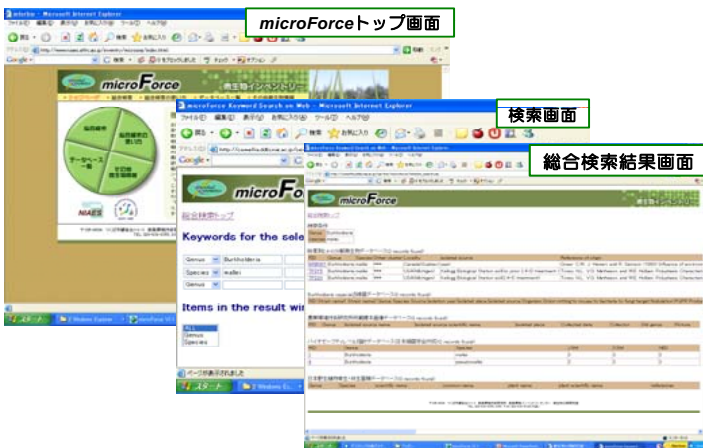
- ・土壌、水、大気、昆虫、微生物、植物など農業環境資源の過去から現在にわたって採取された各種の標本や試料の現物（土壌モリスや昆虫標本など）
- ・これらに関連するデータ、手法、知見、技術などの有用情報を集積し分類整理した情報（地図、報告書やデータベースなど）
- ・これらの情報を発信・利用し、さらに発信した情報が新たな情報を生んで増殖するシステム（データベースの検索・情報収集システムなど）



大気試料保存缶

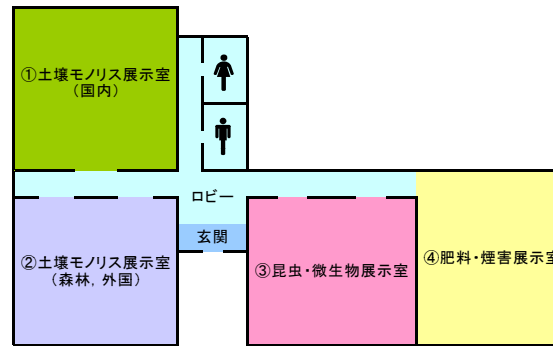


1/5万土壌図



微生物データベースmicroForce

展示室配置



開館時間等

開館時間 8:30～17:30
 休館日 土・日曜日、祝日、年末年始
 見学を希望される方は事前にお申し込み下さい

交通



連絡先

独立行政法人 農業環境技術研究所
 農業環境インベントリーセンター
 〒305-8604 茨城県つくば市観音台3-1-3
 TEL/FAX: 029-838-8351, E-mail: www@niaes.affrc.go.jp

農業環境インベントリー展示館

Natural Resources Inventory Museum



NIAES 独立行政法人 農業環境技術研究所
 National Institute for Agro-Environmental Sciences

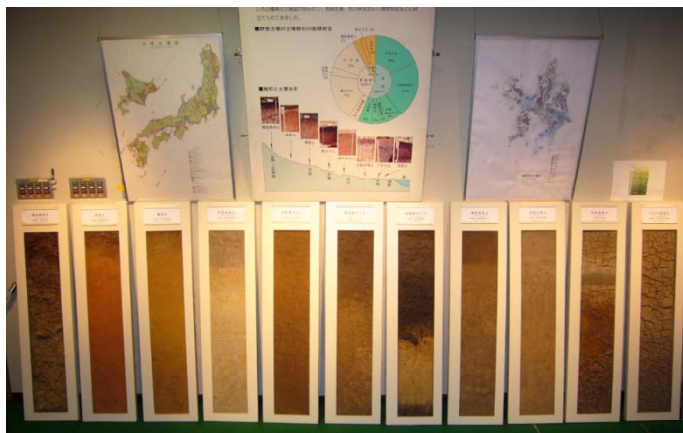
土壌モノリス展示室

土壌モノリス(土壌断面標本)は、土壌断面をそのままの姿で採取した標本を樹脂で固定したものです。この土壌モノリスは、農業生産や環境保全の基盤としての土壌断面の構造や色などの情報を現物として観察することができます。このため、研究者の情報交換、農家や一般の人々に対する土壌についての知識の普及および学生の学習などの資料として欠かせないものです。

農環研では、インベントリー展示館内に土壌モノリス展示室を設置し、土壌モノリスを展示するとともに、多くの機関へモノリスの貸し出しをおこなっています。

現在、登録され保存展示されているモノリスは、国内の断面約200点および外国の断面32点です。日本国内でのモノリスの収集・保存・展示は、大学、研究機関および博物館でおこなわれていますが、当所ほどの数を所有する機関はわが国では他にはありません。

また、世界のさまざまな国の土壌図についても展示しています。



日本の代表的土壌のモノリス

昆虫・微生物展示室

1899年の農事試験場に昆虫部が設けられて以来、昆虫標本の収集・保存がおこなわれ、所蔵標本の数約120万点にのぼり、毎年約2万点ずつ増加しています。

この所蔵標本は、農環研の研究者が長年にわたって収集したもののほか、外部の研究者から寄贈されたコレクションが多く含まれています。

この展示室にはそれらの標本のうち、昆虫の類縁関係を示す目ごとの標本、生物多様性を示す茨城県谷津田の畦に住むカメムシ類59種、外来昆虫やホロタイプの標本などを展示しています。



昆虫・微生物展示室の内部

農環研では1880年代から現在まで約120年間にわたり採集・寄贈された、微生物が植物葉に感染した状態で押し葉として保管されているさく葉標本約5,000点、微生物をシャーレで培養し、そのまま凍結乾燥して密封した乾燥標本約2,000点を保管しています。さらに、細菌および糸状菌の凍結乾燥アンプル、凍結チューブ、継代培養試験管など約4,000点を低温で保存し、その収集は現在も続いています。展示室にはこれらの標本数点ずつを展示しています。



細菌の凍結乾燥標本

肥料・煙害展示室

明治34年(1901年)から昭和29年(1954年)にかけて作成された、肥料の窒素・リン酸・カリなどの分析結果の台帳489冊のうち10冊と醤油かす、幼蚕かす、リン鉱石などの当時の肥料約700点のうち50点を展示しています。



肥料標本と分析台帳



肥料サンプル

日本の肥料会社や研究所で製造された普通肥料や特殊肥料、農業肥料、土壌改良資材、また肥料の原料となる鉱石など約1,000点のうち300点を展示しています。

明治41年(1908年)から昭和12年(1937年)にかけて調査・研究した際に得られた2,300点を超える亜硫酸ガスの被害(煙害)を受けた植物標本とそのスケッチ画や関連する写真などの資料のうち、約60点を展示しています



肥料・煙害展示室内部